

登録コード	T0013201	開講年度	2026				
授業科目	ボランティア特別実習 I (16T以降)					担当教員	番場 教子
英文授業名	Volunteer Activity 1					副担当	白井 啓一郎
単位数	1	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	電子情報システム工学科2～4年生
講義室			授業形態	実習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー該当							
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】				⇔	【授業の達成目標】	
	2.5Tカリ, 2.3Tカリ						
	【22T～】共通教育による幅広い教養と、工学の専門分野における基礎学力が身についている。				⇔	社会貢献の大切さを、工学の専門分野を通して体感、理解できるようにする。	
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、芸術文化、環境共生、多文化協働、健康長寿、防災減災、キャリア						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	ボランティア活動等の課外活動で、本科目の趣旨に合致し、質と量ともに科目単位数に見合う内容の活動に対して、本科目の単位として認定する。 初めに、ボランティア活動の内容と計画について、指導教員（または学年担任）と相談し承認を受ける。次に、学務委員と相談し、活動が単位認定対象となることを確認し、承認を受ける。ボランティア活動を実施し、活動終了後、実施報告書を作成して指導教員（または学年担任）および学務委員と面談し、実施の確認と実施内容の承認を受ける。学務委員が単位認定の手続きを行う。						
(5)授業計画	1.実習計画の作成 2.指導教員（または学年担任）との相談（実習計画等の承認） 3.学務委員との相談（活動内容等の承認） 4.受講申請 5.ボランティア活動の実施 6.指導教員（または学年担任）との面談（実施の報告と確認） 7.学務委員との面談（実施内容の報告と承認） ボランティア活動の実施にあたっては、活動団体のプログラムに従って実施する。 ボランティア活動後は活動団体責任者が作成した活動証明書（書式自由。ただし、活動団体責任者のサインまたは捺印が必須）を発行してもらうこと。						
(6)成績評価の方法	実験・実習を基準に、30～45時間（=2～3時間×15週）を目安に1単位として認定する。 活動への取り組みの有無は、活動証明書をもって確認する。 活動への取り組み状況は、実施後の面談および実施報告書等から評価する。60点以上を合格とし、評価は信州大学の基準に従い5段階にておこなう。 実施報告書の体裁は自由であるが、以下の項目を記入すること。 ・タイトル ・提出日 ・学籍番号と氏名 ・ボランティア実施日と時間 ・活動内容 (i)参加するボランティアの目的 (ii)参加するボランティアの背景 (iii)参加するボランティアによる社会貢献の内容 (iv)(iii)の社会貢献から自分自身の価値観へのフィードバック (v)(i)～(iv)をふまえて自分の見解 実施報告書には、活動した団体の責任者の署名等を入れること。						
(7)成績評価の基準	実施報告書の内容に対して、以下の観点で評価する。 (i)参加するボランティアの目的が適切であること、 (ii)参加するボランティアの背景を説明できていること、 (iii)参加するボランティアにどのような社会貢献があるかを指摘できていること、 (iv)(iii)の社会貢献から自分自身の価値観へのフィードバックが説明できていること、 (v)(i)～(iv)をふまえて自分の見解を提示できていること その上で、以下の基準で評価する。 「水準にある」 団体等のボランティア活動に参加し、レポートと活動証明書を提出した場合、 「やや上にある」 団体等のボランティア活動に参加し、本人の積極的な取り組みが認められるレポートと活動証明書を提出した場合、 「かなり上にある」 団体等のボランティア活動に参加し、本人の独創的な取り組みが認められるレポートと活動証明書を提出、45時間より長い学修があった場合 「卓越している」 団体等のボランティア活動に参加し、本人の独創的な取り組みが認められるレポートと活動証明書を提出、45時間より長い学修があり、本人の活動に対して団体等から高い評価コメントを得ている場合						
(8)事前事後学習の内容	・ボランティア活動に対する事前自己学習は受け入れ団体の定めに従うこと。 ・ボランティアの目的や背景について事前に調査して、ボランティアの具体的な活動を決定する。						

(8)事前事後学習の内容	・どのように自分が社会貢献できるか自分の考えをまとめ、ボランティアに取り組む。 ・ボランティアから学んだこと、新たに見いだされた価値観などを活かして、社会の一員としての自覚を持てるように常に意識して生活する。
(9)履修上の注意	・事前の指導教員および学務委員の承認を得ずに実施した活動については認定されないので注意すること。 ・承認にあたっては、内容がボランティア活動としてふさわしいかどうか、活動時間（期間）が適切であるかどうか、他の学業に支障がないか等の点について検討をおこなう。 ・面談と実施報告書提出は原則として活動終了後1ヶ月以内におこなうこと。 ・本科目は【当該学科】の卒業要件を満たすための単位にはならないので注意すること。
(10)質問,相談への対応	指導教員、学務委員が行う。 メール等にて随時受け付ける。教員室を訪ねる場合は、事前にアポイントメントをとること。
(11)その他	詳細は学年ガイダンスにて説明する。
【教科書】	特に指定しない。
【参考書】	特に指定しない。